

ご卒業  
おめでと〜ございませう

# 日本工業大学後援会 会報

第 98 号

発行 / 日本工業大学後援会

埼玉県南埼玉郡宮代町学園台四一  
一〇四八〇三四一四二二(代)  
平成二十七年三月二十日  
<http://nikkouenkai.jp/>

R100

## 有形無形の財産



会長 沼尻裕之(C4埼玉)

が、微力ながらも大いに寄与していることと思います。

早春の候、会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃から後援会活動にご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

当後援会は設立してから今年で48年になります。私は後援会の一員であります。同時に平成元年3月・第19期の卒業生で、当大学のOBでもあります。当時、卒業記念として後援会の皆さまからいただいた記念品が今でも私の職場の机で活躍しています。

30年前の当時も、広大で整備されたキャンパスであったと記憶していますが、やはり今のキャンパスを眺めると、羨ましく思っています。これには、大学の計画的な設備投資や国の補助金の活用がなされた結果であることはもちろんのことですが、後援会会員の皆様から頂いた貴重な会費の一部によって、特別事業や緑化事業を継続して行っていたこと

後援会の過去の資料を見ますと、昭和から平成にかけては、理事会や総会で使っている学友会館や学生食堂の整備が主な事業だったようです。近年ではキャンパス外周の門・扉の改修や、駐輪場・駐車場の整備を特別事業として行いました。

後援会は、48年前から継続的に学生たちに必要と思われる事業を実施してまいりました。その結果が今のキャンパスに反映されていると思いますし、後援会として形に残る財産であります。

特別事業や緑化事業が後援会の有形の財産であるなら、48年間に卒業された約3万5千名にも上る卒業生は無形の財産です。彼らが日本全国で学び、成長し、活躍していくことが、将来の後援会にとって大きな財産になっていくと思えます。(手前味噌ですみません。)最後に、設立当初から事務局として後援会を補佐してくれている学校教職員の皆さまに、心より感謝を申し上げます。

### 平成27年度新入会員説明懇談会開催一覧

開催日	主催支部	開催会場	説明担当
3月1日(日)	新潟県支部	じょいあす新潟会館	一丸敬典 総務課主任
〃	北陸支部	富山電気ビルディング	鈴木史朗 財務課主任
〃	近畿支部	ホテルホップインアミダ	林 祐司 教務部事務副部長
3月7日(土)	秋田県支部	秋田温泉さとみ	佐藤建夫 財務部長 磯 雄二 財務課長
3月8日(日)	青森県支部	青森国際ホテル	原 渡 施設環境管理課長
〃	蔵王支部	悠湯の郷 ゆさ	鈴木良裕 学生支援課長
〃	福島県支部	清稜山倶楽部	塩入 修 就職支援課主任
〃	群馬県支部	高崎ビューホテル	初見範子 就職支援課長 武井 孝 学生支援課員
〃	茨城県支部	筑西ダイヤモンドホール	日下部恵美子 教務課長 水谷耕平 就職支援課員
〃	長野県支部	ホテル信濃路	穴井正洋 教務課主任
3月14日(土)	沖縄県支部	沖縄県 青年会館	吉見健二 学生支援課主事
3月15日(日)	千葉県支部	学友会館	杉村京子 総務課長(人事担当) 井上 直 教務課員
〃	栃木県支部	ホテル丸治	江原里織 学生支援課主任 宮本智子 教務課員
〃	山梨県支部	ホテル春日居	齊藤 望 入試室課長
〃	東海支部	安保ホール	倉島清隆 総務部長
〃	西中国支部 東中国支部	ホテル後楽	大塚竹郎 総務課長(庶務担当)
3月21日(土)	静岡県支部	男女共同参画センター あざれあ	山本好央 財務課主任
3月22日(日)	岩手県支部	北上市さくらホール	川島信也 入試室主任

## 新入会員説明懇談会を開催

～新入会員の皆様を先輩会員たちが歓迎しました～

3月1日(日)から3月22日(日)にかけて、左表のとおり全国18の会場にて「新入会員説明懇談会」を開催しました。

この懇談会は、4月から新たに入学する学生のご父母の皆様が抱えていると思われる、入学前後の不安や疑問を取り除き、安心してご子息・ご息女を大学に送り出してもらおうことを主な目的として、

入学前に、地元会場にて開催しているものであります。

「地域別教育懇談会」と同様に後援会の支部主催であるため、他大学とちがって、とてもアットホームな雰囲気の特長です。大学と家庭が協力して、皆で学生を応援し、共に成長を見守っていくという熱い思いが、新入生にもご父母にも伝われば嬉しく思います。

# 支那だより

## 縁と絆

前秋田県支部長  
小原 博英 (S4)



”先日はどうも！” ”まいどさま！” “こんな言葉で、遠方の見ず知らずの人だった方々と挨拶を交わすことになるとは思ってもいなかった。”

息子の入学式後に参加した「後援会をご理解いただく会」で聞いた内容は意外なものだった。会費を集めて大学へ資金補助するだけの団体、地域の名士数名が音頭を取って、名ばかりの活動で体裁を整える…そんな先入観は完全に払拭された。学内環境・学業支援・アパート仲介等の生活環境支援に至るまで、子供たちを支えるための数多くの事業・活動を伺い知ることができた。

程なく、秋田県支部理事会の案内が届いた。進んで参加した。初対面の方々との初交流であったがとても楽しかった。2年目からは本部の会合や隣県のイベントにも

顔を出すようになっていた。

隣県へ赴く支部間交流は意義深いものだった。どこの支部も独自に考え、これがいんじゃないかな。“こうした方が楽しんでもらえるんじゃないか”と支部会員のため・来賓教員のために色んなアイデアを実践していた。勉強になった。秋田でも取り入れよう…そして実際にすぐに取り入れた。自己満足かも知れないが結果が出ているような思いがある。

支部会合・各種イベント・隣県訪問・本部会合など、後援会の活動はどれも楽しかった。子供の卒業の時期を迎えて振り返った時にその思いをひしひしと感じている。

ボランティア組織には世話役が必要だ。多くの場合、世話役になるのを人は嫌がる。理由は簡単で、面倒なことをしなければいけない損な役回りだと思っただろう。

でも、そんなことばかりではなかった。子供の縁で参加した後援会活動で、全国の仲間と冒頭のよきな挨拶ができる関係を築けた。心のふれ合いを持ってたと思っている。これを絆と呼ぶのだろうか。得をしたとさえ思っている。

最後に、本部事務局を担って頂いた藤田さま、飯島さまには深く感謝している。この組織を維持運営して頂き、お蔭でこんなに有意義で楽しい4年間を過ごさせていだいたのだから。

## 一生の思い出、感謝感謝です

前新潟県支部長  
高橋 健彦 (C4)



楽しいでみようと参加を決意致しました。参加したらこれが楽しいこと、楽しいこと。パブル絶頂期を謳歌した同世代の皆さん達と同じ目的に向かつて歩んでいる、この実感をヒシヒシと感じ、そして皆さんと美味しいお酒を飲めることが楽しみとなりました。四年間の楽しさでは、息子以上だったと思っております。

私にとつては楽しい後援会ですが、私の所属しております新潟県支部、入学する学生数、そして何より支部主催の催しに参加される会員が年々右肩下がりで減少しております。各地の支部さんでも同様の悩みをお持ちではないかと思っております。

具体的に参加者を増加させる特效薬は無いかもしれませんが、新潟県支部では昨年より、新会員様全員に役員をお願いすることとさせて頂いております。これは新たに会員となられる方々がやつと二桁という、こじんまりした支部だから出来ることかもしれません。新役員様方には極力催しへの参加をお願いし、更なるご協力も頂いております。

支部後援会活動、最大行事である「地域別教育懇談会」。これに参加して頂くと参加された会員様皆さん全員、本当に良かったと云って頂きます。当日参加者に記入して頂くアンケート結果も素晴ら

しい回答がかえってきます。我が家ではこの四年間、息子の学科の参加者が少なく、面談では一時間近く担当教授とお話しをさせて頂いて来ました。こんな経験、なかなかできることはありません。またその後によく懇親会、二次会と忌憚無く、教授陣、会員の皆さんとお付き合いできて、本当に素晴らしい会だと思っております。

我が家は息子の他に娘が二人、大学生を現在やっております。彼女達の大学にも父兄会や後援会があり、同様に案内も送られて来ます。

ある大学は、はがき一杯に小さい字で一年間の行事がぎっしり書かれたものが送られて来て終わりであったり、大学の会報が定期的を送られてくるけれど、おざなりにすぎなかつたりです。遠く故郷から子供達を送り出す親にとつて、我々父兄と距離を措かず接して頂ける「日本工業大学」は、一味も二味も違う大学であり、後援会であると思っております。

素晴らしい先生方と脈々と受け継がれて来た後援会、今後の活動が益々ご発展することを願っております。

私は、四年前に後援会活動に誘って頂いた先輩と、この四年間一緒に後援会活動をして頂いた支部役員の方皆さん、会員の皆さん、そして大学の先生方、後援会本部の皆さんへ感謝の念で一杯です。



まさしく感謝、感謝です。  
本当に、有難うございました。  
この場をお借りして御礼申し上げます。

## 11の4年間を振り返って

蔵王支部監事

遅澤 一枝 (L4)



お陰さまで、我が息子も、この春無事卒業を迎え、社会人としてスタートすることとなりました。

思い起こせば4年前、入学式を目前に、あの東日本大震災が起きました。引越し準備もまだ万全でない中、電力会社で働く私は、仕事優先で物事を考えなければならず、日々パニックになりながら入学準備をしました。結果、引越し出来たのが入学式の前日という始末。式を終えると早々に帰らなければならず、私達を見送る不安げな息子の姿が今でも忘れられません。知らない土地で初めての一人暮らし、勉強も仲間とも上手くやっていたらどうか？まだ余震も頻発している状況下で、息子を一人残し帰るのは、心配と寂しさで胸が押し潰される思いでした。

そんな気持ちを一扫してくれたのが、後援会との出会いでした。初めて後援会行事に参加させて頂いたのは、1年目の総会と地域別懇談会からです。案内を頂いた時、『大学でそこまでやるの？』と正直驚きましたが、情報量の少ない親としては願ってもないことでした。個別面談では担当して下さいる教授から、成績面・大学での様子や活動状況について、親切丁寧に説明して頂きました。このように入学卒業まで、大学と後援会が一体になってサポートしてくれるシステムは、日工大だけではないでしょうか。遠く離れていても親が安心して応援することができ、心より感謝しています。

2年目から微力ながら支部役員もお引き受けし、色々な活動を通して会員の皆様と親睦を深めることが出来ました。特に、本部理事会では各支部の皆様や、通常ならお話できない学長先生、教授の方々、職員の皆様と、様々な話題でお話させて頂きました。田舎者の私の世界観も少し広がったように感じます。もちろん子供の勉強面・生活面・就職等も相談させて頂き、色々助けて頂きました。皆様との出会いは、私にとって『一生の宝もの』です。出来るならば、今後とも継続してお付き合い頂ければと願ってやみません…。  
後援会活動は情報を得るチャンスの場です。後援会行事なんてと

消極的なお考えのご父兄の皆様、是非一度参加してみてください。我が子の努力や頑張りを発見したり、また時には不安や心配事を解決するチャンスの場でもありますよ！私も4年間、後援会活動を通して、楽しみながら多くのことを学ばせて頂きました。  
最後に、日本工業大学および後援会の更なる発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます、感謝の言葉とさせて頂きます。本当に有難うございました。

## 愛縁奇縁に感謝です！

前長野県支部長

鈴木 敏正 (M4)



日工大後援会との出会いは、平成23年3月12日、東日本大震災の翌日に開催された長野県支部の新入会員説明懇談会でした。説明会で、日工大は震災の影響が少なく、今後の学生生活に不安はないと聞き、ホッとしたのと同時に、工友会県支部長が息子の高校の前校長であったのに驚きました。そこで、日工大には後援会という組織があることを知り、程なくして支部役員就任の要請をいただきました。

県支部の役員は本部理事も兼ね、年に何回か自己負担なく大学に行くことが出来ると聞かされ、単純な私は、理事会にかこつけて息子の様子を見に行くことができると安易に考え、役員就任をお引き受けしました。

ところが、新任理事として翌年5月の総会に出席すべく受付しようとする私の名前がない！どうやら、同姓同名の教授と間違えられてしまったようで、旅費の支給も新任理事の紹介もなく、散々な役員デビューとなりました。

しかし、この件の後処理で当時の藤田総務部長と直接やり取りさせて頂いたことが、その後の後援会活動に大きな影響を持つことになりました。

その後、私は仕事の都合で北海道に単身赴任となりましたが、県支部においては、役員としてそのまま活動して欲しいとのご理解をいただき、また、後援会本部においても、北海道に居ながら長野県支部の役員として活動することを特別にお認めいただきました。それ以後、理事会・懇親会での会長のご挨拶の枕詞が「北は北海道から南は沖縄まで」になったことを思い出します。

その他にも、後に公私ともに大変お世話になる竹内学生支援部長が長野県の方で、かつ同好の士であり、藤田氏の後任として総務部長に就任された倉島氏は、私と同

じ長野市のご出身であったり、最初の地懇に本部役員でお越しいただいた田代氏が、翌年会長に選任されるなど、多くの貴重なご縁をいただきました。  
今は、私のような者にこのような素晴らしい経験をさせて下さった皆様にただただ感謝申し上げますのみです。  
本当にありがとうございました。

## 秋田県支部総会が開催されました

3月7日(土)、秋田市の「秋田温泉さとみ」において秋田県支部総会が開催されました。小原博英前支部長には、そのご尽力に対し、沼尻後援会長より感謝状が贈呈されました。新支部長には小田長光氏が就任されました。



会員の皆様へ「ご子息・ご息女にお伝えください」

正保証人様のご住所が変更になった場合は、お早めに、学生支援課に変更届をご提出くださいますようお願いいたします。

# 平成26年度 環境分野研究奨励助成金採択研究テーマ

日本工業大学は、平成13年6月に国際環境規格「ISO14001」の認証を取得し、全学をあげて環境問題に積極的に取り組んでいます。本会は大学の掲げる環境方針に賛同し、かつその推進に協力するため、平成14年度より環境に関する研究に対し「環境分野研究奨励助成」を設け、助成を行っています。本年度は、以下の5件が採択されました。

	研究テーマ及びチームの構成	研究期間	研究の概要	助成額(円)
1	<b>研究テーマ</b> ワイヤレスデバイスを用いたエネルギー見える化システムの開発 <b>研究代表者</b> 平栗 健史 <b>教職員</b> ：電気電子工学科 平栗健史 <b>学生</b> ：E科2年 中山昌美 E科3年 横山駿也 E科4年 山口恵祐、戸谷周作	平成26年 8月1日 ～ 平成27年 7月31日	研究開発の目的は、環境管理活動の一つである節電管理のため、高機能な「電力の見える化システム」を低コストで開発する。当該システムは、開発デバイスをコンセントと電気機器のケーブル間に接続し、簡単に電気機器の消費電力量を計測する。また、この計測情報は無線によってPCなどで収集し、消費電力を目で見て制御が実現できるソフトウェアを開発する。開発システムの実証実験と評価は、「学生主体」で行い、開発技術の確立を目指す。当該システムの確立は、「グリーン・イノベーション」を目指す日本工業大学として、社会へ貢献が期待できるとともに、エコミュージアムに寄与できる研究テーマであるといえる。	200,000
2	<b>研究テーマ</b> 水の電気分解を利用した省エネルギー型プラズマ殺菌清浄システムの開発 <b>研究代表者</b> 桑原 拓也 <b>教職員</b> ：ものづくり環境学科 桑原拓也 <b>学生</b> ：P科3年 雨谷俊、根岸エドワード海、佐々木泰二郎、山本勝平	平成26年 8月1日 ～ 平成27年 7月31日	オゾン殺菌作用が高く空気清浄や水質改善に効果的である。本研究では太陽エネルギーで水を電気分解して酸素と水素を発生させ、酸素に低温プラズマを印加し省エネルギーでオゾンを発生させ、このオゾンを用いた正常装置を開発する。また、発生した水素を燃料電池に供給しエネルギーを回収する。無炭素社会の環境・エネルギーのモデルとして、本システムを開発し、殺菌効果とエネルギー評価を行う。	200,000
3	<b>研究テーマ</b> ペットボトルリサイクルのためのプラスチック分別システムの開発 <b>研究代表者</b> 池添 泰弘 <b>教職員</b> ：創造システム工学科 池添泰弘 <b>学生</b> ：S科3年 牛田孟徳、畑澤雅徳、浜崎祐介、藤田裕嗣、箭竹竜一、湯澤凌	平成26年 8月1日 ～ 平成27年 7月31日	ペットボトルをリサイクル材料として活用するためには、キャップ、ボトル本体、ラベルの素材を分別して回収することが重要である。現在主に利用されている分別方法は、乾式の風力選別と湿式の比重選別とを組み合わせたものである。性質の全く異なる複数の方法を用いているため、分別に手間がかかるだけでなく、大規模な施設が必要となる。本研究では、磁力を利用することにより、1つライン上で材料を分別できる手法を開発し、システム全体の簡易化・小型化を目指す。	200,000
4	<b>研究テーマ</b> 環境教育を目指した物理原理教材の製作 <b>研究代表者</b> 服部 邦彦 <b>教職員</b> ：共通教育 服部邦彦 <b>学生</b> ：P科2年 吉本匡志 C科2年 木間友輔 A科2年 富永大地 E科2年 中山昌美 S科1年 後藤大輝	平成26年 8月1日 ～ 平成27年 7月31日	エネルギー発生や環境改善技術は様々あるが、その原理機構が分かる物理展示教材を製作する。そして、これらを学内外の授業で演習実験などに使用し環境教育に役立てる。エネルギー発生分野として、1.発電機の原理器、2.火力、原子力発電の蒸気発電実験模型、3.原子炉の連鎖反応模型など、環境改善分野として、煤塵・煙などの静電気除去装置などを製作する。	200,000
5	<b>研究テーマ</b> 学内ビオトープの制作と生態系調査 <b>研究代表者</b> 雨宮 隆 <b>教職員</b> ：ものづくり環境学科 雨宮隆 <b>学生</b> ：P科4年 原口寿章 P科3年 安倍和希、加藤翔吾、小峰剛 高野凌暉、中山真一 山口健太郎、渡邊真人	平成26年 9月1日 ～ 平成27年 8月31日	これまで、日本工業大学では、エコ大学ランキングの評価項目において、自然環境分野が劣っており「緑地・生態系」は低い評価しか得られていない。一方、水場というビオトープに活用できる自然環境があるのに利用できていない。このため、これを積極的にビオトープ作りに利用し生態系の構築を図り、尚且つキャンパス内のエコミュージアム化を促進しエコ大学ランキングのアップに寄与しようとする。具体的にはアーチェリー場横の池を整備し、浅瀬を作り小生物を呼び込むとともに、本来の土地植生の一部の復元を試みる。	200,000

## 後援会行事抄

- 平成二十六年十二月十五日(月)後援会会報九十七号発行
- 十二月七日(日)第三十二回吹奏楽団定期演奏会
- 十二月七日(日)～八日(月)宮代会臨時総会(宮城県鎌先温泉)
- 十二月十日(木)～十三日(土)エコプロダクツ2014に出展(東京ビッグサイト)
- 平成二十七年二月十一日(日)大学後援会・工友会・宮代会合同新春懇親会(ハイアットリージェンシー東京)
- 一月十六日(金)学生自治会主催 新成人講演会
- 一月二十日(金)第6回エコ大学ランキング表彰式
- 二月二十一日(土)サービセンタ―連絡協議会、天満宮例祭
- 二月二十二日(日)役員会、理事会、特別事業委員会
- 二月二十三日(月)東武動物公園駅前ロタリー開通式
- 二月二十八日(土)留学生別科修了式
- 三月一日(日)～二日(日)新入会員説明懇談会※1頁参照
- 三月二日(月)～六日(金)学内合同企業説明会
- 三月七日(土)秋田県支部総会

## 相談票

相談票をご利用下さい

学科学年	
学籍番号	
氏名	
会氏名	
連絡先	TEL
後援会では会員各位にこの相談票を通して、いつでも学生の成績・生活・就職等ご相談に応じられる窓口を開いています。 右の票(便箋、ハガキでも結構です)に相談したい事項や、ご意見、ご希望等、記入の上、事務局宛にご送付下さい。可能ながぎり回答します。 (ご意見・ご投書・ご寄稿もどしどしお寄せください。(事務局))	